

「罪人を招くために来た」

マタイ 9：9-13

今日の聖書の箇所は、マタイが弟子となった出来事が語られています。マタイは徴税人でした。徴税人は、当時のユダヤにおいては罪人と考えられていました。そして、一般のユダヤ人からは、一緒に食事をすることも禁じられ、裁判の証人として立つことも許されず、言わば真つ当なユダヤ人としては扱われていない人でした。

イエスさまは、「収税所に座っている」マタイに目を留められました。罪のまっただ中にいて、その中にどっぷりと浸り、腰を下ろして座っていたマタイにイエスさまは目を留められたのです。そしてひとこと、「わたしに従いなさい」と声をかけられたのです。

聖書は、この時の様子を簡潔すぎるくらい簡潔に記しています。ここから、私たちは一つのことに気付かされます。それは、私たちが、罪の中でどのような状態になっていたとしても、イエス様は私たちに目を留め、声をかけてくださるということです。罪のただ中にいた私、いや罪のただ中にいるということさえ分からなかった私。その私を非難するのでもなく、叱るのでもなく、ダメな奴だと思下すのでもない。ただ、私のすべてを見通し、私のすべてを知った上で、私のすべてを受け入れてくださる、そして、イエス様は告げられます。「わたしに従いなさい」と。このイエス様の言葉によって、私たちは、罪の中に座り込んでいたところから「立ち上がって」、イエス・キリストに従う者とされたのです。

イエス様はマタイを召し出した後、一緒に食事をされました。その食事の席には、徴税人や罪人も大勢やって来て同席しました。イエスさまは食事を共にすることで、徴税人や罪人たちをご自分の仲間として招き、受け入れられたのです。この時、その様子を見ていたファリサイ派の人々は、イエス様の弟子たちに「なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と言いました。あなたたちの先生は神の国について教え、律法を解釈し、人々を導いている方ではないか。だったら、どうしてあんな人たちと一緒に食事をするのか。救われることなど決してない人々と一緒に食事をするのか。どうしてあんな人たちの仲間になるのか。全くもって理解できない。そう言ったのです。

そのようなファリサイ派の人々の想いに対して、イエスさまはこう言われます。「医者が必要とするのは、丈夫な人ではなく病人である。『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」と。

医者が必要とするのは病人です。健康な人に医者は要りません。もし健康な人だけだったら、医者は必要ないでしょう。でも、そうはならない。それと同じように、もし正しい人だけだったらイエスさまが来られる必要はなかったでしょう。でも、現実はどうではない。罪という誰も治すことのできない病にかかっている人がいるのです。むしろ「正しい人は一人もいない」と言われるように、すべての人が罪の中にあるのです。そのすべての人々のためにイエスさまは来られたのです。一切の罪を赦し、私たちを神の子として新しい命に生きる者とするためにイエス様は来られたのです。

ファリサイ派の人々の問題点は何かということ、私は正しい人、義人だと思っていたことです。自分の熱心さや努力、それに基づく正しさで救いを勝ち得ると思っていたことです。フ

アリサイ派の人々は、自分が病人、つまり罪人だとは考えていませんでした。だから、許しを求めようとしなかったし、イエスさまもいないのです。でも、もちろん、そんなことはありません。イエス・キリストに近づく第一歩は、自分は罪人だという認識です。その認識がなければイエスさまの招きの声を聞くことは難しいと言わざるを得ないでしょう。そしてイエスさまの教え、あるいはイエスさまの存在が人々を二分するというのは、実はこのことなのです。イエスさまが来られて福音のメッセージを語った時に、人々が二分されていきます。その一番のスタートが、自己認識の問題です。私は神の前に不十分である、罪人であると認めるのか、それとも私は正しいと思っているのか。それによってイエスさまの招きの声が聞こえるか・聞こえないかが決まってくるのです。

神さまは今日、私たちをご自身の愛の中に招いておられます。その中で私たちは「わたしに従いなさい」との声を聞くのです。この声を聞く時、三つの出来事が私たちに起こってきます。一つは、私は罪人であるということを知られることです。もう一つは、私の罪は赦されたということを知られることです。これは、どちらか一方ではありません。この二つは、私たちの上に同時に起こってくる出来事なのです。

さらにそのうえで起こってくる三つ目のことは、このイエス様との出会いによって新しい私、イエス様に従う私が生まれるということです。私たちは罪人です。しかし、イエス様に愛され、赦され、招かれた。このことによって私たちは、イエス様を愛し、イエス様を信頼し、イエス様に従う者とされて、新たな歩みへと押し出されていくのです。